

短 報

和歌山県白浜町の海岸付近におけるクマゼミの初鳴き

久保田 信*・田名瀬英朋*

Shin KUBOTA and Hidetomo TANASE: The earliest droning of *Cryptotympana facialis* (Hemiptera, Cicadidae) at the seaside in Shirahama Town, Wakayama Prefecture, Japan

南西諸島（沖縄県）から関東（神奈川県）・北陸（福井県）地方にかけて分布するクマゼミ *Cryptotympana facialis* (WALKER) は、夏季に鳴く日本最大のセミで、九州・四国地方での初鳴きは7月上旬に、南近畿地方では梅雨あけの7月中旬に聞ける（環境庁, 1998; 中尾, 1990）。ところが、和歌山県白浜町の海岸付近で、最近、異例に早い初鳴きが3例あったので報告する。1999年から2002年にかけて、いずれも単独個体による初鳴きで、3例目ではその日に2回、異なる時刻に鳴き声が聞こえた。

年月日	時刻	場所
1999-7-4	11:05	瀬戸臨海実験所構内
2001-6-16	11:30	堅田漁業協同組合養殖場付近
2002-6-19	8:35, 9:40	瀬戸臨海実験所構内

上記の時節に出現しているクマゼミの個体数はまだ非常に少ないはずなので、第3例目は同一個体が2度鳴いた可能性が大きい。初例では、16時頃に瀬戸臨海実験所構内の水族館東側の入り口付近で雄1個体が死亡していたことと、14時頃に1個体が入り口付近（ごみ集積場）を飛翔するのを目撃したことから、既に当日に複数個体がいたと推測される。その日以降、少なくとも1999年7月8日までの5日間は毎日午前中に鳴き声は聞こえた。なお、2例目の初鳴き時刻がお昼近いのは、その日が曇天であったことも影響して、発音活動時刻（中尾,

1990参照）が普段より遅くなったと推測される。また、3例目の初鳴きの後、少なくとも6月24日までは、雨天でない限り、毎日午前中に単独個体の1-2回の鳴き声が瀬戸臨海実験所構内で聞こえた（6月21日: 11:12; 6月22日: 8:52, 10:52）。6月23日には、実験所近くの坂田でも11:40に1個体が鳴いた。その後、日を追う毎に実験所付近では発音活動するクマゼミの個体数は増加し、台風接近日前後の7月9日と12日には多数の個体が例年のように蟬時雨を奏でた。

以上の3例中、少なくとも後の2例は今後も白浜町では稀に早い初鳴き例として記録に残るであろう。これらは例外的な個体かもしれないが、今後、初鳴き日を南紀地方の諸処で大規模に調査し、九州・四国地方と連続して南近畿地方も東海地方につながる7月上旬の初鳴き地方（環境庁, 1998）になる可能性を検討する必要がある。

なお、異例な遅鳴きについては既に報告した（久保田・田名瀬, 1999）。

引 用 文 献

- 環境庁. 1998: 身近な生きものの調査. 35 pp. 環境庁自然保護局 計画課 自然環境調査室, 東京.
- 久保田信・田名瀬英朋. 1999: クマゼミの遅鳴きの最近の記録. 南紀生物, 41(1), 64.
- 中尾舜一. 1990: セミの自然誌. 179 pp. 中公新書. 中央公論社, 東京.

* 京都大学大学院理学研究科附属瀬戸臨海実験所（〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町）
Seto Marine Biological Laboratory, Graduate School of Science, Kyoto University, Shirahama, Nishimuro,
Wakayama 649-2211, Japan